令和７年8月 14 日

南の風 For Junior196

南部地区ミニバスケットボール連盟
会　長　藤原　敬一

１９５の続きです。パニッシュメント（代償を払わせること）について付け加えます。

例えば、ピック＆ロールに対してディフェンスがハードショウ（スクリナーのディフェンスがユーザー＜ボールマン＞の動きを抑えるためにコースに出てくるディフェンスのこと）をしてきたときなどは、スクリナーにダイブのチャンスが生まれることになり、そこを軸に攻めることが、すなわち**相手に代償を払わせることになる**のです。そこを突くことができなければ、相手にいいとこ取りをされてしまいます。バスケットボールはそのような関係性がいたるところにあるスポーツであることを、考えておいてほしいと思います。

１９５で説明したアライメントで説明を加えます。左エルボーの延長上にボールマン①、ボールサイドのコーナーに③、逆サイドのウイングに②という状態です。それぞれのオフェンスプレーヤーの距離はダブルギャップです。ボールマンからのパスが来たら、ディフェンスの対応によってシュート、カウンター１対１、ダイブ（バックカット）というパニッシュメントとしての選択肢があります。**オフボールプレーヤーが「自分のディフェンスがヘルプに行ったら自分が攻める」という感覚**を持ち合わせていると、「ヘルプされた」という消極的な感覚ではなく、**「ヘルプは次のチャンス」**というようにヘルプを積極的に捉えることができます。自分のディフェンスがヘルプに行くかどうかを察知し、ヘルプした瞬間に「よし来た！チャンスだ！！」（代償を払わせることができる）というマインドセット（考え方、物事の見方）が大切です。

ボールマンはスコアスプレーでヘルプディフェンスを見極め、自分が攻めるのかパスアウトをするのかを判断しますが、**ボールマン以外の４人のオフボールプレーヤーはボールマンのスコアスプレーがうまくいくように、ダブルギャップの巧妙なポジショニングで顔を出すことが重要**になります。

🏀巧妙なポジショニングで顔を出す

“巧妙な”ポジショニングについて、コーナーのポジショニングを例に説明します。効果的なポジショニングのためにコーナーを使用することはよく見られますが、ただコーナーにいるだけでは不十分です。自分のディフェンスの位置やボールマンの状況に合わせて、巧妙にポジショニングすることで、優位性を獲得することができます。

具体的に説明します。ゴールに向かって右エルボーの延長上にボールマン❶、逆サイドのコーナーに味方の❷がいるとします。❷のディフェンダーは、ゴール下（フォーム）の辺りで守ります。ボールマン❶が右ドリブルで右エルボーからペイントドライブした場合、❷は１m位リフトします。ボールマンからのパスコースを広げるためです。

コーナーのディフェンスが❶のキックアウトパス（スプレーパス）を警戒して、❶と❷のパスコースに立っているときは、❷はバックカット（ディフェンスの裏を突く）します。

コーナーのディフェンスがノーヘルプで❶がシュートを打てずに、逆サイドへドリブルアウトなら、❷はミドル方向にカッティングして❶からのハンドオフやディッシュパスに合わせます。次号にします